



写真右：新村さん
『きれいな髪飾りと千早で一年目と比べるととても華やかになりました。』

1年目の装束は、白の小袖と緋色の袴だけでした。次の年からは、頭に花簪を付け、白の小袖の上に千早(白のオーガンジーに若草色の鳳凰の模様)を羽織り、華やかになりました。
新しい装束を着けた時は、恥ずかしかったけれどもちょっと嬉しかった事を思い出します。そして、この装束を着け、本殿で浦安の舞(扇の舞・剣の舞)を、神職の方が奏でる笛・太鼓・笙の雅楽に合わせて舞いました。2人で舞うので、間違えないように動きが揃うようにと、毎年緊張して舞っていました。

浦安の舞は、夏休みを利用して、磐田の府八幡宮へ毎年習いに行きました。舞いの手順が少ないのは良かったのですが、ゆっくりと、でも止まらないようにするために、足腰に力を入れて舞う練習をしました。
又、ゆっくり舞って2人の動きを合わせるのは難しく、繰り返し何回も練習しました。練習が終わる頃には筋肉痛で、立ったり座ったりするだけで太股が痛くなりました。その上真夏だったので、吹き出す汗は中々引かず、目には入れれば沁みて、思ったよりも大変な練習でした。
でも、振り返って見れば、とても貴重な経験が出来たなあと懐かしく思います。



写真右：新村さん



寂しくなった通り

子供の頃、毎日買いに行っていた駄菓子屋が閉まっていたり、家はあっても、もう人が住んで居なかったり、その上、ここも、またここも空き地となり、街の様子が変わってしまいました。回船問屋が繁栄していた頃の活気とは言いませぬが、掛塚が元気になるといいなあと思いました。
そんな事を考えていると、私に何が出来るか分からないけれども、この会の活動をこれからも続け、元気な掛塚を取り戻すお手伝いが出来ればと改めて思いました。
「みんなと倶楽部」の「みんなと」とは、「湊」と「皆さん」との二つの意味をかけて付けた名前です。私達の活動を、少し気にとめ、そして応援・注目して頂ければ嬉しいです。そして、津倉邸の草取りや講演会等へのご参加をお待ちしています。

祭り囃子を聴いて — 新村京子 —

My hometown Kaketsuka

みんなと倶楽部

MINVATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第7号

P1 祭り囃子を聴いて 新村京子

P2 旧津倉邸・旧郵便局一般公開

P3 帝国館を調査開始

P4 ちよといっけ? 石川雅子さん(横町)

ちよといっけ?

温故知新! 掛塚を知る「にーさ、ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。今回は、横町の石川雅子さんにお話を聞いてきました。

石川雅子さん 80歳(横町)



Q 皆さんの思い出話には履物屋の「正木屋」がよく登場するのですが?

Q 雅子さんはずっと掛塚に住んでいるのですか?
そう、ここで生まれて、ここで育って、ここで歳をとるの(笑)
Q 雅子さんのお宅はお風呂屋(松乃湯)さんだったとお聞きしましたが?
そうなの、履物屋の東側に3階の高さの建物があった。1階のお風呂は天井が2階の高さまでありました。両親は正木屋(履物屋)とたばこ屋をやっていたからお風呂の管理は3階に住んでいたご夫婦がしてくれてたんです。

Q えっ? 脱衣所ではなくて洗い場ですか?
そう、タイルの洗い場。(笑)
お店(正木屋)が終わると、母ちゃんが作ってくれた晩ご飯を交代で食べて、晩ご飯が終わると私と姉は廊下の引戸からお風呂に行っただよ。まだお客さんがいたけど。(笑)お客さんが帰るとその後は家族みんなでお風呂掃除。私らもゴシゴシと一生懸命洗いました。

Q お父様は戦争へ行かれたんですか?
はい、出征の前日に軍服姿の父は祖父と二人で写真を撮って、当日は私も親戚の人達と浜松駅まで見送りに行ったのを覚えています。そして忘れもしない私が小学校2年生の8月15日、終戦。

Q ではその修業で身に付けた技術で履物屋を始めたいですか?
そう、お客さんが好きな板と鼻緒を選んで、その人の足に合わせて据えたんですよ。「正木屋」の履物を履いたら他の履物履けない!」って、お客様に言っていたら、父親が話した事がありました。
盆や正月になるとよくお客さんが新しいのを買いに来てくれましたね。父親に「下駄が出来たで並べなさい」って言われて、私もよく下駄を店に並べる手伝いをしました。

って言って。私は帰って来た父に走って行って飛びつきました。父が私を抱きしめてくれたのはその時が最初で最後。
それは一生経っても忘れんね。その頃はみんな、それぞれにそういうことを経験してきたんじゃないのかな。とにかく、いろんな事がありました。



雅子さんが持っている履物を二足見せていただきました。一つは下駄の裏に「若森」のラベルが貼られた涼しげなもの、そしてもう一足は「正木屋」のラベルが貼られた鎌倉彫の粋なものでした。



— お店の前にて

『正木屋』の入り口を開けるとお父様の『伝一さん』が鼻緒を据えていて、履物屋の一角にあるタバコ屋ではお母様がお客さんと世間ばなしをしている。夕方、「松乃湯」の店先にはお客さんを迎える雅子さんがいて、お客さんの足元には正木屋の下駄・・・。当時の写真や『正木屋』の下駄を見せていただき、楽しく想像を膨らませながらのインタビューでした。「取材・記事のりこ&さゆり」



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合、須田明広、長谷川智

お問い合わせ
ご興味のある方は
下記までご連絡ください!
☎ 0538-66-4775 (名倉)

帝国館(掛塚劇場)を調査開始

のりこ&さゆりが遂に帝国館の調査に乗り出した！
かつて掛塚の娯楽の中心だった帝国館とは一体どんな所だったのか・・・

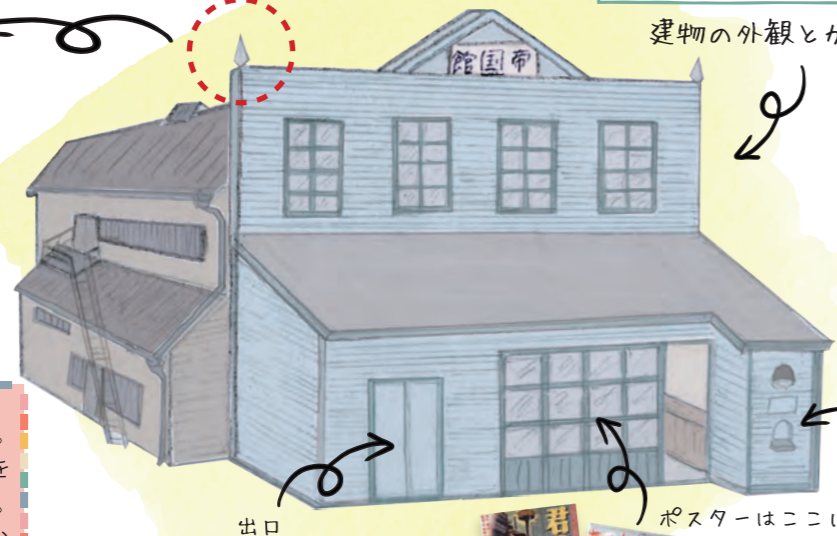


寿組屋台と帝国館
写真提供：須田正男さん(砂町出身)

ココの部分が写真にチラリ

今回の調査で分かった事

建物の外観とかが判明しました。



掛塚劇場になる前は
入場券はココで買ったよ



ポスターはココに



人気の劇団が来ると
建物の前にはすごい行列が
できたそうです

調査協力・帝国館イラスト：井熊さん

求む！帝国館情報！

帝国館のお話をお聞かせ下さい。
また、当時の写真やゆかりの物をお持ちの方は是非ご連絡下さい。
わたしら、のりこ&さゆりが伺います。
連絡先は裏面の電話番号まで！

私たちが帝国館の調査を始めると「帝国館のことなら床屋のタッチャに聞いてみな！」という情報が。なんでも帝国館で映写機を回すバイトをしていたとか・・・。「話が聞きたい！ひよつとしたら写真が見つかるかも！」とお店に押しかけたのは今年の春。それから何度も・・・。(笑)



井熊達人さん



季節感たっぷりの楽しいウィンドウ

調査・記事のりこ&さゆり

達人さんのお話とスケッチのおかげで、私たちも「帝国館」が身近に感じられるようになりました！
第二弾では帝国館内部のイラストを掲載しますのでどうぞお見逃しなく!!

井熊達人さん(昭和14年11月18日生78歳)
横町・理容イクマ

「ちょっといいけ」のインタビューでたびたび皆さんのお話の中に登場するのが「帝国館」(掛塚劇場)。
近隣の方たちが「街へ行って」と出て出かけた先が掛塚だったという時代。それを象徴する場所の一つである帝国館の調査は、写真も資料も見つからずなかなか本紙に掲載することができませんでした。今号で第一弾を掲載できたのは強力な助っ人が現れたおかげなのです。これからお世話になります井熊さんを紹介させていただきますね。

帝国館シリーズ第一弾！

「どうしても帝国館が見てみたい！」

「帝国館の中はどうなっていたの？」

「舞台セットは？」などなど

達人さんは、記憶の中の帝国館をサラサラと紙に描きながら当時の様子を話して下さいました。私たちの頭の中は当時の帝国館へタイムスリップ。宣伝のために、チンドン屋が掛塚中を練り歩く様子を想像して、ニヤニヤ、ワクワク(笑)。

「八千代劇団」「花柳好太郎劇団」のチャンバラ。「高松舞踊団」「富士レビュー」、掛塚劇場になってからは映画が多く上映されて、プロレスもボクシングも来た事があるそうです。「帝国館は掛塚庶民の唯一の憩いの場。老若男女が集まる場所だっただよ。」

旧津倉邸と旧郵便局の一般公開をしました。

10月21(土)・22日(日)の2日間公開しました。



雨の中、たくさんの方に
お越し頂きました。



記事 須田明広

別の季節の公開も検討していきたいと思います。

今年で3回目となる旧津倉邸の一般公開には2日間で200名ほどの方が来場されました。
古い掛塚の地図を持参してくれた方、船頭だった祖先の話をしてくれた方、などなど・・・知られざる掛塚の歴史に触れられた2日間でもありました。
「中を見せてもらったのは初めてだよ」と、法被姿で大急ぎで見学される方もちらほら見受けられましたが、「見学したいけど、お祭りの日は忙しくて行けないやー」という地元の方もいらっしやったのではないのでしょうか？



引きれの展示をしました



10月21、22日のお祭りの2日間で、実家の旧掛塚郵便局と伊豆石の蔵を初めて公開しました。局舎は1935(昭和10)年2月に完成し、1967(昭和42)年3月まで使われました。公開は入り口だけでしたが、実に50年ぶりに多くの方が足を踏み入れたことになりました。カウンタには池田藤平さんが所蔵している掛塚にあった昔の商店の引き札(チラシ)を展示しました。
台風のため、見学に来て下さったのは地元の方が多く、「記念切手を買いに来た。なつかしい」「この引き札の店はどこだろう」と会話が弾んでいました。4代続いた長谷川局長は父で終わりました。私は今年3月、ほぼ40年ぶりに郷里に戻ってきたので、来年以降はもっと活用を進めたいと思います。

記事 長谷川智

雨が残念でした

